

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 1 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870104803
事業所名 (ユニット名)	グループホームかがやき 1階
記入者(管理者) 氏名	管理者 相原ちとせ
自己評価作成日	令和 2 年 6 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>《グループホームかがやき 理念》 ともに歩み ともに生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・より地域に馴染んだ施設となれるよう、できる範囲での外部との関わりを力を入れてきた。が、地域との差が縮まったとは言えないが、近隣の介護施設との関わりも継続して行い、情報共有や協力をして頂ける様に少しでも近づいて様を感じる。まだまだ改善点はあるが、かがやきがこの地域にとって必要な場所となれるよう取り組んでいきたい。 ・職員の不満や訴えになるべく改善していけるよう、その都度お話を伺ったり、個別での面談を行い状況把握に努めている。完全に不満や要望を取り除き、反映できるとは言えないが、良い方向に向かえる様意見交換を行う時間は以前より増えたと感じている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>古くからの住宅と田畑に囲まれた静かな環境にある2ユニットの事業所である。事業所は地域のごみ置き場に隣接しており、近くに掲示板を設置し事業所の情報が地域住民に周知できるようにしている。地域に馴染み地域にとって力になれるような事業所を目指しており、地域とのつながりをより深めていきたいと考えている。近隣の他事業所との関わりも積極的に持ち、事業所や職員のサービス向上に活かすことができるように努めている。勤務歴の長い職員が多く、職員は働きやすい環境であると感じており、若い管理者もまた利用者と職員がともに楽しく過ごせる場所であるように事業所運営に努めている。</p>
---	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人や家族様の希望や要望、想いを伺い、生活歴や趣味の把握に努めチェックシートに記入している。	○	/	○	各ユニットで独自のアセスメントシートを使用しており、利用者や家族から聞いた思いや暮らし方の希望を整理して分かりやすく記入している。追加で得た情報や暮らししていく中で新たに出てきた希望も把握しやすいように、定期的にあセスメントシートの更新を行っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人に伺い、実施することで把握している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などにお話を伺い情報を収集している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケース記録又は引継ノートを利用し、共有の為に記録をとっている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスにて話し合いを行い、職員間で情報を共有している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や家族様からお話を伺ったり、以前利用されていた施設や病院などから情報共有を行っている。	/	/	○	利用者や家族、入居前に利用していたサービス事業所から生活環境や馴染みの暮らし方を聞いている。家族にも利用者の生活歴などを記入してもらったシートを渡しており、利用者のこだわりや大切にしてきたことを細やかに把握して、入居後も希望に沿えるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の記録にてその都度記載するようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中で把握を行い、その都度記録にも記載するようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	記録の確認や何が原因かをカンファレンスにて話し合いを実施している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個人記録を利用し、状態変化の把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日頃の観察や本人にお話を伺ったり、家族様に昔の様子やこだわりなどをうかがうようにしている。	/	/	○	職員は利用者の思いや意向を把握した上で、利用者本人が何を必要としているか利用者や家族の意向に沿いながら、利用者本位の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	お一人お一人何ができて何ができないのかの把握に努め、それぞれの希望を実現できるようカンファレンス等で共有、検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンス等で、職員が気になることなどを伺い、それに対し相談、検討を実施している。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人とお話をする中で、希望や想いを聞きしている。その中で可能なことや協力が必要な際は家族様等にもお願いをすることもある。	/	/	/	利用者や家族、職員、その他関係者が話し合い、計画作成担当者がその意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。介護計画の更新時にも、それぞれの意見を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族様にお話を伺い、介護サービス計画書に反映させられるよう取り組んでいる。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みのある場所や好きな事を伺い、その中で家族様の想いもできる限り実現できる様取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方々との協力体制は十分でないと感じる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各階個別ファイルにていつでも確認できるようにしている。	/	/	△	各利用者の介護計画は個別のファイルに綴じられており、職員はいつでも見て確認することができる。管理者は職員が担当利用者以外の介護計画を十分に把握できていないと感じている。毎日、各利用者のケア内容をチェック表で確認するが、介護計画の課題やサービス内容と連動していない部分がある。介護計画に沿ったケアの実践状況を職員全員が記録、共有できるような様式の工夫などの取組みを期待したい。また、利用者の日常の様子は各利用者の介護記録に記入し、職員の気づきや工夫はミーティングノートに記入し把握するよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングにて把握、共有を行っている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録にて記録、共有を行っている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ミーティングノートを活用し、職員一人一人が把握に努めている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	職員やケアマネと意見交換を行い、状態の変化に応じて見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は期間に応じて見直しを行い、毎月のモニタリングで介護計画の課題やサービス内容について職員間で話し合っている。利用者の状態や希望に変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月末に評価し状況を確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人、家族様、主治医と相談し、見直しを行いながら作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月2回カンファレンスを行い、話し合う機会を設けている。	/	/	◎	毎日のミーティングと月2回のカンファレンスを行い、職員は利用者のケアについて話し合っている。会議等は職員が参加しやすい日程を工夫して、参加できなかった職員には会議録で周知し、職員全員が情報共有できるよう取り組んでいる。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員個々の意見も全体で共有し、内容の検討を行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	参加しやすい日に設定を行ったり、それでも参加できなかった場合には会議録に目を通すようにして頂いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を作成している。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りやミーティングノートを活用している。	/	/	◎	職員が出動した際、ミーティングノートに確認印を付けるようにしており、職員全員で情報共有の徹底に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ミーティングノートを活用している。	○	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	他の利用者様とのバランスも考え、叶える取り組みを行っている。	/	/	/	服装やお茶の時間の飲み物など、職員は日常的に利用者を選んでもらう場を作っている。また、積極的にレクリエーションを行い、職員は利用者の生き活きた表情を引き出せるよう取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替えの際や外出先での品物の購入の際など声かけを行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	物品購入等の際は、出来るだけ一緒に買い物や立ち合いを行っていただくようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や就寝時間などはなるべく個々のペースに合わせている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	日々のコミュニケーションやレクリエーションを通し実施している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	家族様からの情報や、過去の情報を元に観察を行いながら、想いに近づけるように努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	丁寧な言葉遣いを基本とし、馴れ馴れしい言葉遣いではなく、親しみやすい言葉遣いを心がけている。また、委員会を通し、職員の意識向上に取り組んでいる。	○	◎	◎	○ 利用者の人権や尊厳について委員会などを通じて、職員全員が学ぶ機会を設けている。職員は日頃から利用者に対して距離を感じさせずに親しみが持てるような声かけを心がけているが、不快感を抱かせたりあからさまな介助の声かけしたりしないよう配慮している。利用者の居室はプライベートな場所であるということを職員は理解し、ノックや声かけをしてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	状況に応じて、その人にあった声かけ、対応に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄介助の際はカーテンを閉めたり扉を開めるなどの配慮を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時、ノックや声かけを行うなど行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報やプライバシーについて、研修にて知識を深め、遵守できるようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活の中で、出来る事はお願いし、何か手伝って頂いた際にはお互いが感謝の言葉を述べる関係になっている。	/	/	/	○ 利用者同士の関係性や性格を考慮しながら、職員は利用者同士が関わりを作っていけるよう支援している。現在、男性利用者が少なく、職員は孤立しないよう役割を持ってもらうなどの配慮をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が助け合い、できる役割を見つけ生活をして頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	必要に合わせ、職員が間に入り、場合によっては関係性も考慮し、席替えを行う等の対応を行い、孤立化・トラブル防止に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者には不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様の関係性作りはもちろん、トラブルになりそうな場合には職員が間に入る等の取り組みを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	職員同士で話し合い、情報共有を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族様には分かる範囲での利用者様の生い立ちや趣味等の情報を頂き、それを共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	会いに行くことはなかなかできてはいませんが、お電話での会話やお手紙などをいただくなどの支援は可能な範囲で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気楽に来ていただけるような環境作りには配慮している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	毎日行えていないが、利用者様の状態を見て、その都度対応している。(コロナ後は自粛中)	△	○	○	新型コロナウイルスの影響により日常的な外出は自粛しているが、以前はレンタカーを使用して花見に出かけたり、利用者の希望に応じて数名ずつで外食や買い物に行ったりするなど、外出できる機会を作っていた。自粛中にも職員は利用者が事業所周辺を散歩したり、テラスで過ごしたりできるよう対応している。また、職員は重度の利用者の体調を見ながら外気浴を行い、気分転換できるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方や認知症サポーター等の協力体制はない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	頻繁にはできていないが、可能な範囲で玄関先やテラスなどに出る機会を設けている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	地域の方は難しいが、家族様の協力の中で外出される機会はある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	社内研修やカンファレンスを通し対応しているが取り除けているかは不明な部分あり。	/	/	/	着替えの際など、日常生活動作において利用者ができることは見守りながら、職員が口や手を出しすぎないように心がけている。職員は各利用者個別のリハビリメニューを作成して実践したり、全体のレクリエーションに心身機能の維持向上を図る体操を取り入れたりする工夫をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	柔道整復師のもと、個別のメニューを考え機能維持、向上の為、機能訓練を実施している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はご自身で頂き、できない所は職員が介助を行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	情報等を参考に、一人一人の役割を見つけるようにしている。	/	/	/	カレンダーの日付管理や洗濯物たたみなど、職員は利用者により日常的に役割を持ってもらうよう取り組んでいる。入居前に行っていた畑での野菜づくりを担当してもらうなど、利用者の得意なことや好きなことを継続していけるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	家事やレクリエーションを通し実施している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事にはなるべく参加していただいている。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出の際はお化粧をされる利用者様や外出用の服に着替える等の支援を行っている。				管理者は利用者の整容の乱れや汚れについて、「声かけする際の配慮が不十分な職員もいる」と感じているおり、その都度注意して利用者のプライドを大切にされた対応に努めている。美容師免許を持っている職員が利用者の希望に応じたカットやカラーを行うなど、身だしなみやおしゃれも利用者の楽しみになるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	買物等の際はご自身がお好きな物を選んで頂くようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	お好みなどを伺いながら、時には選択肢を設け、自己決定できる支援を行っている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	×	外出用の服にはお着替えをされるが、行事に合わせた服装にはできていない。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさざりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	できている職員とそうでない職員との差はある。	○	◎	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	施設に来ていただいている美容師をお願いをしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的な散髪や衣服の交換は行っている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	利用者様ごとに状態の把握を行っており、介助が必要な方には傍について介助を行ってくださっている。				食材は業者が配達するほか、職員が買い出しをしている。各ユニットに調理専門の職員を配置しているが、状況に応じて利用者も下ごしらえなどを手伝っている。献立は管理者が栄養面やバランスを考慮しながら作成しており、必要があれば職員と話し合ったり医療面から歯科医師等のアドバイスを受けていたりしている。家族から提供してもらった食材や畑で採れた旬の野菜を使った季節感のある献立を意識し、職員は屋外でバーベキューをするなど、食事が利用者の楽しみになるような工夫をしている。入居時に嫌いな食べ物や食べられないものを職員は利用者に関して把握している。食器類は利用者一人ひとりに合ったものや馴染みのものを使用している。1階ユニットでは利用者と職員と一緒に食事をしているが、2階ユニットは食事介助の必要な利用者が多いため、利用者の食事が終わった後に職員がリビングで食事をしている。また、重度の利用者もリビングに面したキッチンから調理の匂いや音を感じることができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	△	料理の下準備(ネギきり、皮むき等)などはお願いして手伝ってくださる。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	献立によっては調理を手伝って頂くが、毎日ではできていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	アレルギーまでの把握はできているとは言えない。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節の食材や料理の提供はもちろん、畑でできた野菜も料理の中に織り交ぜている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	看護師や歯科医師に相談し、状態に応じた食事の提供を行っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れた食器を使って頂いている。利用者様によっては使いやすい食器に変更することがある。			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と一緒に食事をしており、食事環境や介助を行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	オープンキッチンの為、会話をしながら調理や調理風景を見て頂いている。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	チェック表を活用している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	本人の嗜好に合った物を提供したり、主治医や看護師との相談の下、総合栄養剤などを使用し、低栄養にならないよう取り組んでいる。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいるわけではないので、調理方法に関しては職員同士で話し合っている。			△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	研修を行い、必要な知識を持てるよう努めている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアをしっかり行っていただき、誤嚥性肺炎の防止に努めて下さっている。	/	/	/	毎食後口腔ケアを実施し、職員は歯間ブラシを使用するなど利用者一人ひとりの口腔内の清潔保持に努めている。希望する利用者は週1回歯科往診を受けており、職員も口腔ケアのアドバイスを受けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科による治療や指示をいただいている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医より指示をいただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄剤にて毎日除菌を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後歯みがきやうがいの声かけを行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	状況によって歯科受診を行っている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	自立で来ていたことができなくなってしまった事への不安は理解している。	/	/	/	リハビリパンツやパッド類を使用している利用者は多く、その時の状況に合ったものを使用している。トイレでの排泄を基本として、利用者を定期的にトイレ誘導しているが、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべく排泄の失敗を減らすことなどを通して、利用者の自信や意欲につながるような取組みを期待したい。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動不足やストレスなどが原因で精神面に及ぼす影響は大きいと理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄困難な方は主治医に相談や下剤の服用を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	その人にあったパットの使用や状況に応じて変更等を行っている。	/	○	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	原因を話し合い、意見に沿って試し、改善できる様取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	定期的に声かけを行い、誘導している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういつ時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パットやオムツを使用されている利用者様には自分で使えるものを選択できるよう支援をおこなっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	その人に合った下着やオムツを使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分の声かけや牛乳を飲んで頂くなどの取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	清潔を保つため、定期的に入浴の支援をしている。	/	◎	○	週2、3回入浴を基本としているが、現在は回数や時間などの変更を希望する利用者はいない。今後利用者からの希望があった場合には、管理者は「職員数や他の利用者の状況も考慮しながら、なるべく希望に沿った支援をしていきたい」と考えている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	利用者様の中にはゆっくりと入浴をされた方もおられるが、体調面などを考え長さや介助をさせていただく方もおられる。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	ご自身が出来る事はご自身でしていただくようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず声かけにも工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日バイタルチェックを行っており、その状態や状況で判断している。入浴後はリビングにて少しの間すこしていただき、職員が状態を把握できる様取り組んでいる。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	定期的に訪問し把握している。	/	/	/	管理者は安易に睡眠導入剤や安定剤などに頼らないように、利用者の日中の過ごし方や職員の支援方法を検討している。眠剤等を服用する際には、医師に利用者の状態を相談しながら総合的な支援を行うよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	日中はなるべくリビングにてすごしていただき、レクや個人間での作業等また他の利用者様との関わりを持って頂き、過ごして頂いている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中など自身がしたい事や好きな事をしていただき活動的に過ごして頂けるよう取り組んでいる。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝の声かけやある程度自立されている方はご自身の判断で休んでいただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	ご自身で携帯を持たれている方もいるので、その方などは職員の見守りの中、お電話されることあり。他の方は訴えのあった際などにはお電話をしていただくよう柔軟に対応している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	お電話は訴えがあった際などに職員がまず行い、お繋ぎする様にしている。ご自身でのお手紙の支援はできていないが、施設からのお手紙は毎月送らせて頂き、状態などをお伝えできる様にはしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	訴えがあれば行っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたお手紙などはご自身にお渡ししている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族様の無理のない範囲でのお願いは行っている。また、携帯を持たれている方に関しては時間帯によっては家族様のご負担を考え、お断りする事もあり。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持つことでの安心感やこれまでの習慣としての理解を持って頂けることに関してはとても大きいと感じるが、その反面トラブルにもなりえることも十分理解されている。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナのこともあり、現在は自粛している。普段であれば、頻繁にはないが近所に買い物などに行く事もある。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	買い物先からの理解は得られているかは不明。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族様と話し合いを行っている。状況によっては施設が管理させて頂くこともある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	トラブルを防ぐ為にもご本人様や家族様と相談させていただきようになっている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談し同意を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況に応じて取り組んでいる。	◎	/	○	訪問マッサージなど、利用者や家族から希望があれば、外部サービスを利用することができる。家族と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。また、職員と一緒に墓参りに出かけたこともあり、利用者や家族の希望を実現できるよう取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	近隣の方々と挨拶を交わしたり、外に掲示板を設置しているので、掲示物などを貼っている。	◎	◎	◎	地域のごみ置き場からすぐ見える場所に事業所の掲示板を設置しており、地域住民に事業所の情報などを発信している。玄関からは野菜づくりをしている畑やプランターが見え、利用者や地域住民がベンチに座ってつるげる場所を作っている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。)	○	装飾などを行い、家庭的な雰囲気になるよう考えている。	◎	◎	○	リビングにある大きな窓から利用者が野菜を育てている畑を見ることができ、ウッドデッキでは日光浴をすることができる。利用者と職員が手作業で作った季節ごとの作品や家族からもらった花を飾り、季節感のある明るい空間づくりに努めている。また、事業所では毎日清掃や換気を行い、室内環境に配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日清掃を行っている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングから庭などが見える為、お花や野菜などが見え、季節感を感じれる様になっている。また、リビングにも花などを生け、心地よく過ごせるように取り組んでいる。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う同士や会話をされたり、一緒にぬり絵をされたり昔話などされている。また、なかなかお話しができない方でも、その中に溶け込めるよう職員も中に入るように取り組んでいる。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ドアはしっかりと閉め、内部が見えない様職員も気をつけている。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので生活して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	利用者様がお好きなものを貼ったり、設置したりしている。	○		◎	居室には仏壇や使い慣れた家具類、趣味のものなどが持ち込まれ、利用者一人ひとりにあった生活感のある空間となっている。テレビを見ながら居室でゆっくりと過ごす利用者もおり、落ち着いて自分の時間を過ごせるような環境づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	注意書き等を設置しかつ見守りもしている。出来る事は極力していただくように説明し行っている。			○	トイレや浴室の場所が利用者にとって分かりやすいように表示している。居室の入口にはそれぞれ手づくりの表札や似顔絵などが掛けられており、混乱することなく利用者が自室を認識できるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	ゴミ箱を紙にして踏かないよう机の上に設置する等の危険な物は置かない様考えている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	趣味の品や新聞などを手の届くところに置いている。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	心理的不安を考え理解している。どうしても必要な場合などは職員全員で意見交換を行い、利用者様の状態、状況を踏まえ考えている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけた限られた空間で暮らすことの弊害を理解しており、夜間以外は事業所玄関の施錠はしていない。利用者はウッドデッキにも気軽に出ることが可能で、ユニットの入口は両ユニットともに常に開放しており、自由に行き来することができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族様には状況や状態をお伝えし、家族様の意見や想いをくんで取り組んでいる。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	なるべく多くの関わりを持つことで、安心感を持って利用者様に穏やかに過ごして頂くよう取り組んでいる。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	ミーティングノートを確認し、職員一人一人が把握に努めている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体に変化があれば、主治医に相談やその内容を介護記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、主治医に相談や看護師に相談するようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医はもちろん、看護師なども連携し健康管理を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看護師との連携や、状態変化があれば主治医との連携もすぐ取れるようになっていく。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後は結果に関する情報を家族様にも報告を行っている。また、大きな医療の変更などあれば、電話や面談などを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	精神面や本人の希望を含めた情報をお伝えしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時は状態や退院の見込みや時期などの情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	医師や看護師との必要な情報交換を行い、連携に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	必要時や定期的に利用者様の変化や気づき等を看護師に伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師や医療機関と常に相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者様の体調に変化があれば、主治医に相談し、早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	医師からの説明や分かりにくい点や不明な点があれば、薬剤師に連絡をとるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	服用前にはもう一度確認をしてから服用をしていただいている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後や薬の変更後に何かあれば、主治医や薬剤師に相談するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更があれば、その後の本人の状態の経過を主治医や薬剤師に報告をしている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	状態変化の段階ごとに家族様と話し合い、その意向を確認し共有している。	/	/	/	事業所の開設時から積極的に看取り支援に取り組んでいる。利用者や家族、医療関係者、職員間で話し合い、意向や方針を共有している。主治医から家族に状況の説明を行っており、安心感を持って穏やかな終末期を迎えられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	職員、家族様、医師、看護師と話し合う機会を設けている。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その都度職員と情報共有を行い、把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度家族様に説明を行い、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様、主治医はもちろん、職員一人一人や全体で話し合う機会を設けチームで検討や準備が行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時などは職員も家族様の要望や悩みを伺うようにし、精神面での支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	施設内での研修や委員会を設け、取り組みに努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	日頃からの訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	TVやSNS、インターネット等での情報は入手し、共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	施設全体での予防接種や消毒液の設置や日常的な手洗いうがいといった清潔保持に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	感染症予防の注意書き設置や消毒液の設置を行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様の要望を取り入れ、本人が行えることはして頂いている。また、来訪時や電話時には状況をお伝えし、ふれあいの場を設けている。	/	/	/	毎月送付している「かがやき日和」は、利用者一人ひとりの日常の表情が分かる写真を掲載するなど、利用者の様子が伝わるように担当職員が作成している。家族が事業所の行事に参加できるようにお知らせをしているが、参加には至っておらず、事業所の様子や職員の退職のお知らせなどを含めて今後の課題としている。新型コロナウイルス感染予防のため家族との面会を中止している時期は、毎月の「かがやき日和」に加えて、計画作成担当者からの手紙や事業所から家族に往復はがきを送付して利用者宛にはがきを送ってもらい、利用者や家族が安心できるように取り組んだ。事業所ホームページ内のブログからも、利用者の普段の様子を知ることができる。また、日頃より、職員から家族に声かけをして家族が気軽に相談できるような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気楽に来ていただけるよう、日頃からの家族とのコミュニケーションを意識し、穏やかな雰囲気でお話しができるよう努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	イベント情報を送らせていただくこともあるが、定期的にはできていない為、参加までにはいたっていない。	/	△	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、利用者様の日々の状態やイベントの告知を盛り込んだ、かがやき日和を作成し、送付している。	/	○	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	意見箱を設置し、意見の収集に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者様の思っていることをお伝えし、協力をお願いしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	お願いや協力をして頂きたいことがある際にその都度報告をしている。	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会や行事参加まではできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	ケアプランを作成し、その都度説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	意見箱を設置している。その他、家族様が希望される場合は、気軽に相談できる機会を設けている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	内容の変更等の際は、書面等で変更内容を記載し、確認していただくようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去の希望があれば、スムーズに対応出来るよう調節を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	内容の変更等の際は、書面等で変更内容を記載し、確認していただくようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	定期的な運営推進会議での機会を作っている。	/	◎	/	管理者は、現時点で「地域との関わりが希薄である」と感じているため、今後はより地域とのつながりを深めていきたい思いがあり、小学校の運動会をはじめ地域行事に参加することで、事業所と地域が交流できる機会づくりをしている。日常的に近隣住民からの野菜の差し入れがあったり、散歩時の利用者や職員との会話したりするなどの交流も図っている。また、事業所の駐車場で行う夏の花火大会を楽しみにしている地域住民もいる。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事(お祭り、体育祭)などには参加させていただき、散歩の際などは、近所の方々とお話をさせていただくこともある。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の方との関わりは薄く、増えているとは言えない。	/	/	/		/
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ご近所の方などお話をさせていただくことはあるが、立ち寄ることはほとんどない。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地元のスタッフなどは地域の方と話すことも多いが、それ以外は散歩の際に挨拶や短い会話を時折行っている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	運営推進会議などは行っているが、行事等の支援はない。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の行事の参加や市内から離れた落ち着いた土地柄の中での散歩や外気浴といった中で楽しみや興味、関心が生まれるよう取り組んでいる。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	日常的には近隣の施設等に行く機会が少なく、協力の働きかけも行っていない。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域や関係各所の参加はあるが、家族様の参加はなく、声かけも行っていない。	×	/	×	運営推進会議には、行政や地域包括支援センター、民生委員、他事業所からの参加があるが、利用者や家族等の参加がないため、会議の内容を工夫するなど参加が得られる取組みを期待したい。民生委員に地域住民を紹介してもらうなど、多方面から会議の参加メンバーが増えるよう取り組んで欲しい。また、会議の中で外部評価や自己評価については、取組み状況を報告することも望みたい。管理者は会議で出された意見は、サービス向上に活かすことができるよう努めている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	取り組みなどは報告を行っているが、自己評価などの内容はお伝えできていないこともある。	/	/	/		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	いただいた意見は書面に記載し、改善できる様取り組んでいる。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	外部の参加者には土日避けるような配慮を行っている。職員には業務に入りながらということもあり、参加可能な職員には参加を促している。	/	◎	/		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	閲覧できるよう設置してある。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念認識はあるが、職員間での認識の差はあると思う。(代表者、管理者、職員)				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外来者にも認知していただけるよう、入り口に理念を掲げている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	施設外での研修は勤務的にも参加が難しく参加はできていないが、参加ができる場合は、参加費負担や勤務の調節を行っている。				看護師でもある代表者は事業所によく来訪し、利用者や職員と話す機会も多い。管理者は「代表者に事業所全般のことについて相談しやすい」と感じている。職員同士の親睦を深める食事会の機会も年に2回設けており、職員にとって気軽に参加しやすい会となっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	施設だけでは難しい為、施設外研修会参加等希望者は日程調節など行い、参加していただくよう配慮を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	年齢やライフプランに合わせた働き方の調節や研修等においては研修費の負担や資格取得の際には勤務の融通などを行っている。が、不満(向上心を持って働くことができない、給与面、待遇面)を持つ方もいる為、その都度改善に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	近隣施設や様々な業種の方との集まりや研修等に参加し、良い物があれば、施設に取り入れるようにしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	問題や悩み等があれば、時間を作り問題解決に取り組んで。その中で、対応が遅くなってしまうことがある。また、状況によって対応が必要か不必要かを判断することもある。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	身体拘束委員会や研修等を行い、周知して頂いている。				委員会や研修、ミーティング時などに、職員はどのようなことが虐待や不適切行為にあたるかを学び、日々のケアを振り返る機会づくりをしている。また、職員全員がこれらに該当する行為を目にした時には、対応方法を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	定期的な会議や職員からも気になる点や相談などを多くしていただいて把握に努めることができている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	声かけや態度に問題がある場合は注意やアドバイス等行ったり、業務内容の改善に取り組んでいる。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員とのコミュニケーションや状況に応じて個別の話す機会を設け、対応を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	基本的にはできており、理解もしていると思う。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	会議等で実施している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行う場合は、家族様に説明し、承諾を頂くようになっている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	×	完全に把握しているとは言いえない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	要望があれば相談にのることはできる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携体制はとれていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルは作成し、設置している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的には行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書にまとめ、周知を行い事故の再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	会議や事故報告書等を活用し、取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	周知はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在まで苦情はいただいていません。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きな話し合いと関係づくりを心がけています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中での話の中やケアマネがアセスメント、ケアプラン作成時にご本人様とお話しし、お気持ちなどを伺うようにしている。			○	職員は利用者の意見や要望について、日々の生活の中で伝えてもらいやすいように心がけている。家族からの意見も気軽に伝えやすい関係づくりに努めており、職員は日頃からコミュニケーションを取るようになっている。また、管理者は職員の様子を気にかけてながら、会話の機会を大切にしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置したり、面家時はコミュニケーションを図り、伝えやすい関係性を作るようになっている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中に記載している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び、利用者様の状態や職員の意見を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	カンファレンスや面談等で意見を聞く機会を設けている。			○	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	計画的には実施できていない。				現在、外部評価の結果や目標達成計画について、運営推進会議のメンバーや家族への報告は行っていない。今後、取組み状況や経過の報告を行うことで、会議の参加者からアドバイスや意見をもらったり、職員が日々のケアを振り返ったり意識できるような取組みや成果となることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	会議や面談の中で様々な課題がでてくる為、その都度話し合う機会や可能な範囲での改善に取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員の様々な意見を取り入れ、改善に努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施できていない為、報告を行うよう取り組んでいく。	×	◎	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	目標達成計画についての報告はできていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	訓練などを行い、状況に応じてマニュアルを作成している。				定期的に事業所の避難訓練を実施し、地域の災害訓練に参加したりしているが、管理者は「地域との連携は不十分である」と感じている。運営推進会議などを活用し、地域住民と災害時の危険性や対応を話し合うなど、地域との協力支援体制を構築することが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	昼間や夜間想定での訓練は実施は行っているが、まんべんなくはできていないこともある。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に愛媛防災が来られ点検をして頂いている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地域との連携は不十分である。	×	◎	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の災害訓練には参加する場合あり。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ホームページやfacebookで情報発信を行っている。				地域の高齢者から相談を受けた際には、地域包括支援センターと連携して一緒に訪問するなど、相談に応じた支援を行っている。また、近隣の他事業所ともつながりがあるため、協力し合いながら地域にとってのケア拠点となるような取組みが期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	常に開けた施設として心がけている。		◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	イベントはもちろん、パンの訪問販売の際など施設を開放している。(現在はコロナの為自粛中)				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れに協力できる体制ではあるが、あまり経験はない。(昨年、学生のボランティアの受け入れあり。)				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	近隣の施設との関わりは増えて来ている。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 7 月 1 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	3870104803
事業所名	グループホームかがやき
(ユニット名)	2階
記入者(管理者)	
氏名	管理者 前谷 貴裕
自己評価作成日	令和 2 年 6 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>《グループホームかがやき 理念》 ともに歩み ともに生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・より地域に馴染んだ施設となれるよう、できる範囲での外部との関わりを力を入れてきた。が、地域との差が縮まったとは言えないが、近隣の介護施設との関わりも継続して行い、情報共有や協力をして頂ける様に少しでも近づいて様を感じる。まだまだ改善点はあるが、かがやきがこの地域にとって必要な場所となれるよう取り組んでいきたい。 ・職員の不満や訴えになるべく改善していけるよう、その都度お話を伺ったり、個別での面談を行い状況把握に努めている。完全に不満や要望を取り除き、反映できるとは言えないが、良い方向に向かえる様意見交換を行う時間は以前より増えたと感じている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>古くからの住宅と田畑に囲まれた静かな環境にある2ユニットの事業所である。事業所は地域のごみ置き場に隣接しており、近くに掲示板を設置し事業所の情報が地域住民に周知できるようにしている。地域に馴染み地域にとって力になれるような事業所を目指しており、地域とのつながりをより深めていきたいと考えている。近隣の他事業所との関わりも積極的に持ち、事業所や職員のサービス向上に活かすことができるように努めている。勤務歴の長い職員が多く、職員は働きやすい環境であると感じており、若い管理者もまた利用者と職員がともに楽しく過ごせる場所であるように事業所運営に努めている。</p>
---	--	---

評価結果表

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人や家族様の希望や要望、想いを伺い、生活歴や趣味の把握に努めチェックシートに記入している。	○	/	○	各ユニットで独自のアセスメントシートを使用しており、利用者や家族から聞いた思いや暮らし方の希望を整理して分かりやすく記入している。追加で得た情報や暮らししていく中で新たに出てきた希望も把握しやすいように、定期的にアセスメントシートの更新を行っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人に伺い、実施することで把握している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時などにお話を伺い対応を行っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	ケース記録又は引継ノートを利用し、共有の為に記録をとっている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カンファレンスにて話し合いを行い、職員間で情報を共有している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人や家族様からお話を伺ったり、以前利用されていた施設や病院などから情報共有を行っている。	/	/	○	利用者や家族、入居前に利用していたサービス事業所から生活環境や馴染みの暮らし方を聞いている。家族にも利用者の生活歴などを記入してもらったシートを渡しており、利用者のこだわりや大切にしてきたことを細やかに把握して、入居後も希望に沿えるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	職員内で情報に繋がっています。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の関わりの中で把握を行い、その都度記録にも記載するようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	記録の確認や何が原因かをカンファレンスにて話し合いを実施している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個人記録を利用し、状態変化の把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カンファレンスにて相談、話し合いを行っている。	/	/	○	職員は利用者の思いや意向を把握した上で、利用者本人が何を必要としているか利用者や家族の意向に沿いながら、利用者本位の視点で検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	お一人お一人何ができて何ができないのかの把握に努め、それぞれの希望を実現できるようカンファレンス等で共有、検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンス等で、職員が気になることなどを伺い、それに対し相談、検討を実施している。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人とお話をする中で、希望や想いを聞きしている。その中で可能なことや協力が必要な際は家族様等にもお願いをすることもある。	/	/	/	利用者や家族、職員、その他関係者が話し合い、計画作成担当者がその意見やアイデアを反映して介護計画を作成している。介護計画の更新時にも、それぞれの意見を聞いている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人や家族様にお話を伺い、介護サービス計画書に反映させられるよう取り組んでいる。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みのある場所や好きな事を伺い、その中で家族様の想いもできる限り実現できる様取り組んでいる。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	地域の方々との協力体制は十分でないと感じる。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	各階個別ファイルにていつでも確認できるようにしている。	/	/	△	各利用者の介護計画は個別のファイルに綴じられており、職員はいつでも見て確認することができる。管理者は職員が担当利用者以外の介護計画を十分に把握できていないと感じている。毎日、各利用者のケア内容をチェック表で確認するが、介護計画の課題やサービス内容と連動していない部分がある。介護計画に沿ったケアの実践状況を職員全員が記録、共有できるような様式の工夫などの取組みを期待したい。また、利用者の日常の様子は各利用者の介護記録に記入し、職員の気づきや工夫はミーティングノートに記入し把握するよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	モニタリングにて把握、共有を行っている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録にて記録、共有を行っている。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ミーティングノートを活用し、職員一人一人が把握に努めている	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	職員やケアマネと意見交換を行い、状態の変化に応じて見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は期間に応じて見直しを行い、毎月のモニタリングで介護計画の課題やサービス内容について職員間で話し合っている。利用者の状態や希望に変化があった場合にはその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月末に評価し状況を確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に応じて日々対応しています。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月2回カンファレンスを行い、話し合う機会を設けている。	/	/	◎	毎日のミーティングと月2回のカンファレンスを行い、職員は利用者のケアについて話し合っている。会議等は職員が参加しやすい日程を工夫して、参加できなかった職員には会議録で周知し、職員全員が情報共有できるよう取り組んでいる。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員個々の意見も全体で共有し、内容の検討を行っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	参加しやすい日に設定を行ったり、それでも参加できなかった場合には会議録に目を通すようにして頂いている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	記録に残し、確認して頂いている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りやミーティングノートを活用している。	/	/	◎	職員が出動した際、ミーティングノートに確認印を付けるようにしており、職員全員で情報共有の徹底に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ミーティングノートを活用し時間をかけて情報を共有している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	他の利用者様とのバランスも考え、叶える取り組みを行っている。	/	/	/	服装やお茶の時間の飲み物など、職員は日常的に利用者を選んでもらう場を作っている。また、積極的にレクリエーションを行い、職員は利用者の生き活きた表情を引き出せるよう取り組んでいる。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着替えの際や外出先での品物の購入の際など声かけを行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	物品購入等の際は、出来るだけ一緒に買い物や立ち合いを行っていただくようにしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人様のペースに応じてしています。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ゆっくりと急かさずに対応を行っている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情などで確認して声かけを多くしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	丁寧な言葉遣いを基本とし、馴れ馴れしい言葉遣いではなく、親しみやすい言葉遣いを心がけている。また、委員会を通じ、職員の意識向上に取り組んでいる。	○	◎	◎	○ 利用者の人権や尊厳について委員会などを通じて、職員全員が学ぶ機会を設けている。職員は日頃から利用者に対して距離を感じさせずに親しみが持てるような声かけを心がけているが、不快感を抱かせたりあからさまな介助の声かけしたりしないよう配慮している。利用者の居室はプライベートな場所であるということを職員は理解し、ノックや声かけをしてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	状況に応じて、その人にあった声かけ、対応に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	排泄介助の際はカーテンを閉めたり扉を開めるなどの配慮を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時、ノックや声かけを行うなど行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報やプライバシーについて、研修にて知識を深め、遵守できるようにしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活の中で、出来る事はお願いし、何か手伝って頂いた際にはお互いが感謝の言葉を述べる関係になっている。	/	/	/	○ 利用者同士の関係性や性格を考慮しながら、職員は利用者同士が関わりを作っていけるよう支援している。現在、男性利用者が少なく、職員は孤立しないよう役割を持ってもらうなどの配慮をしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様同士が助け合い、できる役割を見つけ生活をして頂いている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	必要に合わせ、職員が間に入り、場合によっては関係性も考慮し、席替えを行う等の対応を行い、孤立化・トラブル防止に努めている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者様の関係性作りはもちろん、トラブルになりそうな場合には職員が間に入る等の取り組みを行っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	職員同士で話し合い、情報共有を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	家族様には分かる範囲での利用者様の生い立ちや趣味等の情報を頂き、それを共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	会いに行くことはなかなかできてはいませんが、お電話での会話やお手紙などをいただくなどの支援は可能な範囲で取り組んでいる。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気楽に来ていただけるような環境作りに対応している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	毎日行えていないが、利用者様の状態を見て、その都度対応している。(コロナ後は自粛中)	△	○	○	新型コロナウイルスの影響により日常的な外出は自粛しているが、以前はレンタカーを使用して花見に出かけたり、利用者の希望に応じて数名ずつで外食や買い物に行ったりするなど、外出できる機会を作っていた。自粛中にも職員は利用者が事業所周辺を散歩したり、テラスで過ごしたりできるよう対応している。また、職員は重度の利用者の体調を見ながら外気浴を行い、気分転換できるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の方や認知症サポーター等の協力体制はない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	頻繁にはできていないが、可能な範囲で玄関先やテラスなどに出る機会を設けている。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	地域の方は難しいが、家族様の協力の中で外出される機会はある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	社内研修やカンファレンスを通し対応しているが取り除けているかは不明な部分あり。	/	/	/	着替えの際など、日常生活動作において利用者ができることは見守りながら、職員が口や手を出しすぎないように心がけている。職員は各利用者個別のリハビリメニューを作成して実践したり、全体のレクリエーションに心身機能の維持向上を図る体操を取り入れたりする工夫をしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	柔道整復師のもと、個別のメニューを考え機能維持、向上の為、機能訓練を実施している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事はご自身で頂き、できない所は職員が介助を行っている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	情報等を参考に、一人一人の役割を見つけるようにしている。	/	/	/	カレンダーの日付管理や洗濯物たたみなど、職員は利用者により日常的に役割を持ってもらうよう取り組んでいる。入居前に行っていた畑での野菜づくりを担当してもらうなど、利用者の得意なことや好きなことを継続していけるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	家事やレクリエーションを通し実施している。	○	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の行事にはなるべく参加していただいている。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	外出の際はお化粧をされる利用者様や外出用の服に着替える等の支援を行っている。	/	/	/	管理者は利用者の整容の乱れや汚れについて、「声かけする際の配慮が不十分な職員もいる」と感じているおり、その都度注意して利用者のプライドを大切にされた対応に努めている。美容師免許を持っている職員が利用者の希望に応じたカットやカラーを行うなど、身だしなみやおしゃれも利用者の楽しみになるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	買物等の際はご自身がお好きな物を選んで頂くようにしている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	お好みなどを伺いながら、時には選択肢を設け、自己決定できる支援を行っている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	×	外出用の服にはお着替えをされるが、行事に合わせた服装にはできていない。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	できている職員とそうでない職員との差はある。	○	◎	△	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	×	美容師免許を持った職員が行っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的な散髪や衣服の交換は行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者様ごとに状態の把握を行っており、介助が必要な方には傍について介助を行ってくださっている。	/	/	/	食材は業者が配達するほか、職員が買い出しをしている。各ユニットに調理専門の職員を配置しているが、状況に応じて利用者も下ごしらえなどを手伝っている。献立は管理者が栄養面やバランスを考慮しながら作成しており、必要があれば職員と話し合ったり医療面から歯科医師等のアドバイスを受けていたりしている。家族から提供してもらった食材や畑で採れた旬の野菜を使った季節感のある献立を意識し、職員は屋外でバーベキューをするなど、食事が利用者の楽しみになるような工夫をしている。入居時に嫌いな食べ物や食べられないものを職員は利用者に向けて把握している。食器類は利用者一人ひとりに合ったものや馴染みのものを使用している。1階ユニットでは利用者と職員と一緒に食事をしているが、2階ユニットは食事介助の必要な利用者が多いため、利用者の食事が終わった後に職員がリビングで食事をしている。また、重度の利用者もリビングに面したキッチンから調理の匂いや音を感じることができる。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	テーブル拭きや食器拭きをして頂いている。	/	/	△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	△	献立によっては調理を手伝って頂くが、毎日ではできていない。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	△	アレルギーまでの把握はできているとは言えない。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節の食材を取り入れた料理の提供を行っています。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	看護師や歯科医師に相談し、状態に応じた食事の提供を行っている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいものを使用している。	◎	使い慣れた食器を使って頂いている。利用者様によっては使いやすい食器に変更することがある。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者様と一緒に食事をしており、食事環境や介助を行っている。	/	/	△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	オープンキッチンの為、会話をしながら調理や調理風景を見て頂いている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	チェック表を活用している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	栄養面を考え、食事量の調節や本人の嗜好に合った物を提供したり、主治医や看護師との相談の下、総合栄養剤などを使用し、低栄養にならないよう取り組んでいる。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士がいるわけではないので、調理方法に関しては職員同士で話し合っている。	/	/	△	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	毎日の調理の中で可能な限り消毒をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアをしっかり行っていただき、誤嚥性肺炎の防止に努めて下さっている。	/	/	/	毎食後口腔ケアを実施し、職員は歯間ブラシを使用するなど利用者一人ひとりの口腔内の清潔保持に努めている。希望する利用者は週1回歯科往診を受けており、職員も口腔ケアのアドバイスを受けている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科による治療や指示をいただいている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医より指示をいただいている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	義歯洗浄剤にて毎日除菌を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後歯みがきやうがいの声かけを行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	状態に応じて往診に来ていただいている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	理解しており、トイレ誘導、声かけをしている。	/	/	/	リハビリパンツやパッド類を使用している利用者は多く、その時の状況に合ったものを使用している。トイレでの排泄を基本として、利用者を定期的にトイレ誘導しているが、職員は利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべく排泄の失敗を減らすことなどを通して、利用者の自信や意欲につながるような取組みを期待したい。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動不足やストレスなどが原因で精神面に及ぼす影響は大きいと理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄困難な方は主治医に相談や下剤の服用を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	職員同士で話し合い、支援しています。	/	○	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	原因を話し合い、意見に沿って試し、改善できる様取り組んでいる。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターン合わせ、声かけ、誘導しています。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	パットやオムツを使用されている利用者様には自分で使えるものを選択できるよう支援をおこなっている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	一人一人に合わせて使い分けています。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	乳製品を取り入れたりと、運動の声かけ支援を行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	清潔を保つため、定期的に入浴の支援をしている。	/	◎	○	週2、3回入浴を基本としているが、現在は回数や時間などの変更を希望する利用者はいない。今後利用者からの希望があった場合には、管理者は「職員数や他の利用者の状況も考慮しながら、なるべく希望に沿った支援をしていきたい」と考えている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	利用者様の中にはゆっくりと入浴をされた方もおられるが、体調面などを考え長さや介助をさせていただく方もおられる。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	洗えるところはご自身で洗っていただき、できない所を職員が支援しています。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いせず別の日にずらしています。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	朝のバイタルういチェックし、入浴の可否を見極めていきます。	/	/	/	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	定期的に訪問し把握している。				管理者は安易に睡眠導入剤や安定剤などに頼らないように、利用者の日中の過ごし方や職員の支援方法を検討している。眠剤等を服用する際には、医師に利用者の状態を相談しながら総合的な支援を行うよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	△	日中の運動や家事の手伝いをしていただいたり、活動量を増やしています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	△	睡眠の状態を主治医へ伝えている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	午後より昼寝等休めるよう時間をとっています。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	希望があればお電話をさせて頂いています。手紙のやりとりも支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	ご自身から自発的にお手紙を書かれる方もおられ、お電話に関しては希望がある際にはしていただくようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	訴えがあれば行っている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	届いたお手紙などはご自身にお渡ししている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	家族様の無理のない範囲でのお願いは行っている。また、携帯を持たれている方に関しては時間帯によっては家族様のご負担を考え、お断りする事もあり。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持つことでの安心感やこれまでの習慣としての理解を持って頂けることに関してはとても大きいと感じるが、その反面トラブルにもなりえることも十分理解されている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	コロナのこともあり、現在は自粛している。普段であれば、頻繁にはないが近所に買い物などに行く事もある。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	パンの訪問販売の方は協力して頂いている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	家族様と相談し、本人の希望に応じてお金を所持していただいている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	トラブルを防ぐ為にもご本人様や家族様と相談させていただきようになっている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族様と相談し同意を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	状況に応じて取り組んでいる。		◎	○	訪問マッサージなど、利用者や家族から希望があれば、外部サービスを利用することができる。家族と一緒に外出を楽しむ利用者もいる。また、職員と一緒に墓参りに出かけたこともあり、利用者や家族の希望を実現できるよう取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	近隣の方々と挨拶を交わしたり、外に掲示板を設置しているので、掲示物などを貼っている。	◎	◎	◎	地域のごみ置き場からすぐ見える場所に事業所の掲示板を設置しており、地域住民に事業所の情報などを発信している。玄関からは野菜づくりをしている畑やプランターが見え、利用者や地域住民がベンチに座ってつるげる場所を作っている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	花を飾ったり、利用者様がレクリエーションで作った飾りを壁に飾ったりしている。	◎	◎	○	リビングにある大きな窓から利用者が野菜を育てている畑を見ることができ、ウッドデッキでは日光浴をすることができる。利用者と職員が手作業で作った季節ごとの作品や家族からもらった花を飾り、季節感のある明るい空間づくりに努めている。また、事業所では毎日清掃や換気を行い、室内環境に配慮している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	定期的な清掃を行っている。					
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングから庭などが見える為、お花や野菜などが見え、季節感を感じれる様になっている。また、リビングにも花などを生け、心地よく過ごせるように取り組んでいる。					◎
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う同士や会話をされたり、一緒にぬり絵をされたり昔話などされている。また、なかなかお話しができない方でも、その中に溶け込めるよう職員も中に入るように取り組んでいる。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	ドアはしっかりと閉め、内部が見えない様職員も気をつけている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅から持ってこられたソファやタンスを設置している。	○		◎	居室には仏壇や使い慣れた家具類、趣味のものなどが持ち込まれ、利用者一人ひとりにあった生活感のある空間となっている。テレビを見ながら居室でゆっくりと過ごす利用者もおり、落ち着いて自分の時間を過ごせるような環境づくりを支援している。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレの表示をし、利用者様の動線を確保している。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	ハサミや針を使用する際は、フロアで職員が見守る中で使用して頂いている。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	趣味の品や新聞などを手の届くところに置いている。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	心理的不安を考え理解している。どうしても必要な場合などは職員全員で意見交換を行い、利用者様の状態、状況を踏まえ考えている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけた限られた空間で暮らすことの弊害を理解しており、夜間以外は事業所玄関の施錠はしていない。利用者はウッドデッキにも気軽に出ることが可能で、ユニットの入口は両ユニットともに常に開放しており、自由に行き来することができる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族様には状況や状態をお伝えし、家族様の意見や想いをくんで取り組んでいる。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	なるべく多くの関わりを持つことで、安心感を持って利用者様に穏やかに過ごして頂くよう取り組んでいる。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	△	フェースシート、個人記録にて把握し、往診時の情報を職員間で共有している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	身体状態の変化や移乗のサインは記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や看護師に報告し、指示を仰いだり、見て頂いている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	主治医はもちろん、看護師なども連携し健康管理を行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	看護師との連携や、状態変化があれば主治医との連携もすぐ取れるようになっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診後は結果に関する情報を家族様にも報告を行っている。また、大きな医療の変更などがあれば、電話や面談などを行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	精神面や本人の希望を含めた情報をお伝えしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時は状態や退院の見込みや時期などの情報交換を密に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	医師や看護師との必要な情報交換を行い、連携に努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	必要時や定期的に利用者様の変化や気づき等を看護師に伝えている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	看護師や医療機関と常に相談できる体制をとっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝バイタルチェックを行っている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方された薬の説明書を読んでいる。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個別の薬袋を使用し、確認ができるようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	服薬後や薬の変更後に何かあれば、主治医や薬剤師に相談するようにしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の変更があれば、その後の本人の状態の経過を主治医や薬剤師に報告をしている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態変化の段階ごとに家族様と話し合い、意向を確認するよう努めている。	/	/	/	事業所の開設時から積極的に看取り支援に取り組んでいる。利用者や家族、医療関係者、職員間で話し合い、意向や方針を共有している。主治医から家族に状況の説明を行っており、安心感を持って穏やかな終末期を迎えられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	職員、家族様、医師、看護師と話し合う機会を設けている。	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その都度職員と情報共有を行い、把握に努めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度家族様に説明を行い、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族様、主治医はもちろん、職員一人一人や全体で話し合う機会を設けチームで検討や準備が行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時などは職員も家族様の要望や悩みを伺うようにし、精神面での支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	施設内での研修や委員会を設け、取り組みに努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	×	日頃からの訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	TVやSNS、インターネット等での情報は入手し、共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	施設全体での予防接種や消毒液の設置や日常的な手洗いうがいといった清潔保持に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	感染症予防の注意書き設置や消毒液の設置を行っている。また、職員、利用者様共に手洗いを徹底し行い、清潔保持に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族様の要望を取り入れ、本人が行えることはして頂いている。また、来訪時や電話時には状況をお伝えし、ふれあいの場を設けている。	/	/	/	毎月送付している「かがやき日和」は、利用者一人ひとりの日常の表情が分かる写真を掲載するなど、利用者の様子が伝わるように担当職員が作成している。家族が事業所の行事に参加できるようにお知らせをしているが、参加には至っておらず、事業所の様子や職員の退職のお知らせなどを含めて今後の課題としている。新型コロナウイルス感染予防のため家族との面会を中止している時期は、毎月の「かがやき日和」に加えて、計画作成担当者からの手紙や事業所から家族に往復はがきを送付して利用者宛にはがきを送ってもらい、利用者や家族が安心できるように取り組んだ。事業所ホームページ内のブログからも、利用者の普段の様子を知ることができる。また、日頃より、職員から家族に声かけをして家族が気軽に相談できるような雰囲気づくりに努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	気楽に来ていただけるよう、日頃からの家族とのコミュニケーションを意識し、穏やかな雰囲気でお話しができるよう努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	イベント情報を送らせていただくこともあるが、定期的にはできていない為、参加までにはいたっていない。	/	△	△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月、利用者様の日々の状態やイベントの告知を盛り込んだ、かがやき日和を作成し、送付している。	/	○	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	意見箱を設置し、意見の収集に努めている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者様の思っていることをお伝えし、協力を願っている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	お願いや協力をして頂きたいことがある際にその都度報告をしている。	/	×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族会や行事参加まではできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	家族様にリスクについて説明し、話し合いを行っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	△	来所時には声かけし、気がかりなことや希望をお聞きしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	内容の変更等の際は、書面等で変更内容を記載し、確認していただくようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去の希望があれば、スムーズに対応出来るよう調節を行っている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	内容の変更等の際は、書面等で変更内容を記載し、確認していただくようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
Ⅲ. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	定期的な運営推進会議での機会を作っている。	/	◎	/	管理者は、現時点で「地域との関わりが希薄である」と感じているため、今後はより地域とのつながりを深めていきたい思いがあり、小学校の運動会をはじめ地域行事に参加することで、事業所と地域が交流できる機会づくりをしている。日常的に近隣住民からの野菜の差し入れがあったり、散歩時の利用者や職員との会話したりするなどの交流も図っている。また、事業所の駐車場で行う夏の花火大会を楽しみにしている地域住民もいる。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事(お祭り、体育祭)などには参加させていただき、散歩の際などは、近所の方々とお話をさせていただくこともある。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の方との関わりは薄く、増えているとは言えない。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	ご近所の方などお話をさせていただくことはあるが、立ち寄ることはほとんどない。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	地元のスタッフなどは地域の方と話すことも多いが、それ以外は散歩の際に挨拶や短い会話を時折行っている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	運営推進会議などは行っているが、行事等の支援はない。	/	/	/		/
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域の行事の参加や市内から離れた落ち着いた土地柄の中での散歩や外気浴といった中で楽しみや興味、関心が生まれるよう取り組んでいる。	/	/	/		/
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	×	日常的には近隣の施設等に行く機会が少なく、協力の働きかけも行っていない。	/	/	/		/
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	地域や関係各所の参加はあるが、家族様の参加はなく、声かけも行っていない。	×	/	×	運営推進会議には、行政や地域包括支援センター、民生委員、他事業所からの参加があるが、利用者や家族等の参加がないため、会議の内容を工夫するなど参加が得られる取組みを期待したい。民生委員に地域住民を紹介してもらうなど、多方面から会議の参加メンバーが増えるよう取り組んで欲しい。また、会議の中で外部評価や自己評価については、取組み状況を報告することも望みたい。管理者は会議で出された意見は、サービス向上に活かすことができるよう努めている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	取り組みなどは報告を行っているが、自己評価などの内容はお伝えできていないこともある。	/	/	△		
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	いただいた意見は書面に記載し、改善できる様取り組んでいる。	/	◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	外部の参加者には土日避けるような配慮を行っている。職員には業務に入りながらということもあり、参加可能な職員には参加を促している。	/	◎	/		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	閲覧できるよう設置してある。	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念認識はあるが、職員間での認識の差はあると思う。(代表者、管理者、職員)				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	外来者にも認知していただけるよう、入り口に理念を掲げている。	○	◎		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	施設外での研修は勤務的にも参加が難しく参加はできていないが、参加ができる場合は、参加費負担や勤務の調節を行っている。				看護師でもある代表者は事業所によく来訪し、利用者や職員と話す機会も多い。管理者は「代表者に事業所全般のことについて相談しやすい」と感じている。職員同士の親睦を深める食事会の機会も年に2回設けており、職員にとって気軽に参加しやすい会となっている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	施設だけでは難しい為、施設外研修会参加等希望者は日程調節など行い、参加していただくよう配慮を行っている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	年齢やライフプランに合わせた働き方の調節や研修等においては研修費の負担や資格取得の際には勤務の融通などを行っている。が、不満(向上心を持って働くことができない、給与面、待遇面)を持つ方もいる為、その都度改善に努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	近隣施設や様々な業種の方との集まりや研修等に参加し、良い物があれば、施設に取り入れるようにしている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	問題や悩み等があれば、時間を作り問題解決に取り組んで。その中で、対応が遅くなってしまうことがある。また、状況によって対応が必要か不必要かを判断することもある。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	身体拘束委員会や研修等を行い、周知して頂いている。				委員会や研修、ミーティング時などに、職員はどのようなことが虐待や不適切行為にあたるかを学び、日々のケアを振り返る機会づくりをしている。また、職員全員がこれらに該当する行為を目にした時には、対応方法を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	△	定期的な会議や職員からも気になる点や相談などを多くしていただいて把握に努めることができている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	声かけや態度に問題がある場合は注意やアドバイス等行ったり、業務内容の改善に取り組んでいる。				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員とのコミュニケーションや状況に応じて個別の話す機会を設け、対応を行っている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	基本的にはできており、理解もしていると思う。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	会議等で実施している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行う場合は、家族様に説明し、承諾を頂くようにしている。				

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	×	完全に把握しているとは言いえない。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	要望があれば相談にのることはできる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	連携体制はとれていない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルは作成し、設置している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	×	定期的には行っていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	報告書にまとめ、周知を行い事故の再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	会議や事故報告書等を活用し、取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	×	周知はできていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	現在まで苦情はいただけていません。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	前向きな話し合いと関係づくりを心がけています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日々の生活の中での話の中やケアマネがアセスメント、ケアプラン作成時にご本人様とお話しし、お気持ちなどを伺うようにしている。			○	職員は利用者の意見や要望について、日々の生活の中で伝えてもらいやすいように心がけている。家族からの意見も気軽に伝えやすい関係づくりに努めており、職員は日頃からコミュニケーションを取るようになっている。また、管理者は職員の様子を気にかけてながら、会話の機会を大切にしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	意見箱を設置したり、面家時はコミュニケーションを図り、伝えやすい関係性を作るようになっている。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	契約書の中に記載をしている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	現場に足を運び、利用者様の状態や職員の意見を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	カンファレンスや面談等で意見を聞く機会を設けている。			○	

愛媛県グループホームかがやき

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	×	計画的には実施できていない。				現在、外部評価の結果や目標達成計画について、運営推進会議のメンバーや家族への報告は行っていない。今後、取組み状況や経過の報告を行うことで、会議の参加者からアドバイスや意見をもらったり、職員が日々のケアを振り返ったり意識できるような取組みや成果となることを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	会議や面談の中で様々な課題がでてくる為、その都度話し合う機会や可能な範囲での改善に取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	職員の様々な意見を取り入れ、改善に努めている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	×	実施できていない為、報告を行うよう取り組んでいく。	×	◎	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	目標達成計画についての報告はできていない。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	訓練などを行い、状況に応じてマニュアルを作成している。				定期的に事業所の避難訓練を実施し、地域の災害訓練に参加したりしているが、管理者は「地域との連携は不十分である」と感じている。運営推進会議などを活用し、地域住民と災害時の危険性や対応を話し合うなど、地域との協力支援体制を構築することが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	△	昼間や夜間想定での訓練は実施は行っているが、まんべんなくはできていないこともある。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に愛媛防災が来られ点検をして頂いている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	地域との連携は不十分である。	×	◎	×	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の災害訓練には参加する場合あり。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	ホームページやfacebookで情報発信を行っている。				地域の高齢者から相談を受けた際には、地域包括支援センターと連携して一緒に訪問するなど、相談に応じた支援を行っている。また、近隣の他事業所ともつながりがあるため、協力し合いながら地域にとってのケア拠点となるような取組みが期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	常に開けた施設として心がけている。		◎	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	イベントはもちろん、パンの訪問販売の際など施設を開放している。(現在はコロナの為自粛中)				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	受け入れに協力できる体制ではあるが、あまり経験はない。(昨年、学生のボランティアの受け入れあり。)				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	近隣の施設との関わりは増えて来ている。			△	